

令和6年度 第1回磐田市いじめ防止等対策推進委員会

- | | | | |
|---|------|--|-----------|
| 1 | 日 時 | 令和6年6月10日(月) | 午前10時から正午 |
| 2 | 場 所 | 磐田市役所西庁舎 | 301 会議室 |
| 3 | 出席者 | 太田 正義 常葉大学教育学部心理教育学科 准教授
村松奈緒美 静岡県弁護士会
猪原 裕子 臨床心理士 | |
| 4 | 出席職員 | 学校教育課長 教育支援グループ長 | 担当指導主事 |
| 5 | 傍聴人 | 0人 | |

学校教育課長挨拶

- 一つの物事に対して様々な背景があること、学校教育の我々の力だけでなく、多面的な視点から御示唆頂く中でよいものにしていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

司会進行：委員長

協議・意見交換

- ・これまでの経過と磐田市いじめ防止のための基本的な方針について
- ・磐田市いじめ問題対策連絡協議会の報告
- ・いじめ等の現状について

以上3点は、事務局から説明

(委員) 令和3、4、5年と、問題行動の数字が増えていると感じました。いじめの認知件数増加との相関はありますか。

(事務局) いじめと認知されたものもありますが、万引き行為や対教師暴力、授業から抜け出す等の生徒間暴力以外の問題行動も含まれています。

(委員) 問題行動の数の増え方に比べると、いじめ認知は目立つほど増えてはいないと感じました。いじめに該当しないものが増えているということでしょうか。

(事務局) 小学生の授業放棄や授業妨害が多いです。

(委員) おそらく、授業妨害等がある子は緩やかに不登校に移行していくはずなんです。授業に取り組めない、分からない、授業のスタイルが合っていないというような話の可能性があります。令和3年度から増えているということは新しい学習指導要領の話で、おそらく教育課程の問題を考えた方がいいと思います。不登校が増え始めたのは平成24年からで、以前のゆとりの学習指導要領のときは増えていないんです。コロナはありましたが、学習指導要領改訂でやっていることが合っていない子たちがいるのではないかと、授業妨害や授業放棄を含めて、発達障害の子

などに支援が届いていないのではないかという受け止めをした方がいいのではないかなという気もします。全国どこでも似たような傾向で、不登校が増えたと言われていますが、結局はその手前で、こういう問題が頻発しているのではないかと思います。不登校が増えてしまってどうするかという議論ができにくい。不登校になってから見えるわけではなく、おそらくこういうところに問題の端緒が見えていて、どう取り組むかということが重要だと思います。学校はどうでしょうか。

(委員) 以前は1年生の粗暴行為は多くなかった気がします。一般的には3, 4年生あたりが増えてくる時期だと思います。また、昨年度は、荒れるクラスが多かったと思います。原因は分からないですが、はたから見ていると、集団参加する意識が薄いお子さんは複数いて、ぎゅっと引き付ける弱さもあったりして、うまくいかないと崩れてしまうという印象でした。1年生の不登校の相談が結構多くて、以前は1年生の登校しぶりはほぼ聞かなかったのですが、幼稚園から始まっている子も多いです。

(事務局) 学習指導要領やコロナの影響はあるのだらうと思います。私は中学校と小学校に務めました。やはり、小学校低学年の不応適という状況は増えていると思います。教室不応適や学習不応適を起こして、集団生活や学校生活に相容れないという状態がはじめや不登校の課題につながっていることもあるのだらうと思います。コロナの影響で他との接触が少なかったとか、幼稚園教育と小学校教育のギャップに順応できていない子どもたちがいると。教育課程や学習指導要領の在り方や内容の見直しが必要なのではないかという点はおっしゃる通りで、教育新聞にも出ていましたが、現在の子どもたちの成長・発達状況に、今の学習指導要領が求めていることはもう一致していないのではないかという話が出始めていて、今後、議論がされていくんじゃないかと思います。

(委員) 警察統計上の非行は減っています。2012年と比べて2022年は本当に少なくなっています。昔は12~14歳ぐらいで増えて、あとは減っていくというグラフでしたが、今は、ほぼ一律で低い。子どもたちの非行離れは、指導ではなくて支援から入ることによって非行化が防がれているというような説明がされています。その手前、非行まではいかないけれどちょっと学校についていけない子たちが、大人に恨みはないけれど、学校に行かない選択をとれるような世の中になったのではないかとすると、この流れはおそらく止まらないし、それをどうやってカバーしていけばよいか、なかなか難しいと思いました。

(委員) 不安の相談も増えていて、他害にいくのではなく自分に向かう、引きこもるといふか内側に入るといふ方についているのではないかという印

象があります。

(委員) 学校を荒らさない子が増えたと思います。ずっと学級崩壊を研究していたのですが、荒れないからデータも取れない。10年くらい前のデータでは、学級数が少ないところは学級崩壊してなかったんです。その代わりに不登校が多いという結果が出ていた。要するに、子どもの数が増えると学校で問題を出して、子どもの数が減ってくると学校に行かなくなることで問題を出すという解釈が成り立っていたんです。ですが、最近はまだ傾向が変わってきていて、学校に行かなくていいというハードルが下がっているのではないかと考えていろいろとデータを取っているんですが、あまり出てこないんです。不登校は増えていて、学校へ行かなくなる過程でみんな痛みがあるというデータは出ます。みんな気軽に休んでいるわけではなさそうというデータは出ています。教育機会確保法ができて気軽に休めるようになったのであれば、痛みは少ないはずなんです。実際休んでいる子たちのデータを取ると、すごく痛んでいるんです。痛んでいる子が増えているという話で、今まで我々が経験したことがない新しい時代に突入しているので、ここから先のいろいろな対策というのは本当に手探りになるんだろうと思いつつ市町の状況を見ています。教育委員会の役割が大きいと思いますので、よろしくをお願いします。